平成26年度義務教育段階での学習内容の確実な定着のための研究事業実施報告書

学校番号	8	学校名	県立熱海高等学校
対象課程・学科・学年		全日制の課程・普通科・１年生	

1　研究のねらい

⑴ 義務教育段階の学習内容の学び直しを行い、その定着を図ることにより、高等学校段階の学習を行えるようにするとともに、生徒のキャリア発達を図ることができる。

⑵ 義務教育段階の学習内容の定着を図ることにより、学習意欲の向上、生活態度の改善、学校生活の充実を図ることができる。

⑶ 本研究の成果を本校だけに留めず、他校への還元を図ることにより、義務教育段階の学習内容の定着が不十分な生徒に対する指導の充実を図ることができる。

2　研究の概要

本研究は「平成23・24年度高等学校教育課程等編成研究事業」からの継続研究である。

⑴ 「平成23・24年度高等学校教育課程等編成研究事業」における研究成果と課題

本校生徒の義務教育段階における学習内容の定着は十分ではなく、高等学校段階における学習内容の定着に支障をきたすことがあるため、上記の研究事業において、学校設定教科「キャリアアップ」を１年生の教育課程に位置付けて研究を進めた。生徒の実態に合わせて、義務教育段階の国語、数学、英語の学び直しに限らず、一般常識の学習も取り入れ、生徒個々の理解度に応じ一人で学習が進められるプリント学習とし、全教員で指導に当たった。平成23年度は準備期間とし、24年度から実際に授業を行い、以下の成果と課題が明らかになった。

ア　成果

(ｱ) 生徒は自分のペースで取り組むことができ、学習内容に対して「分かった」という達成感を得ることができた。

(ｲ) 複数の教員で担当することにより、きめ細やかな指導ができた。

(ｳ) 全教員が指導に当たることにより、生徒の実態を共有することができた。

(ｴ) 学校が落ち着き、退学者が減少した。

イ　課題

(ｱ) 内容及び量に妥当性のある教材プリントの作成

(ｲ) 定着が十分な生徒と不十分な生徒に対する指導方法

(ｳ) 必履修科目における、「キャリアアップ」との関連性を考えた指導方法

(ｴ) 生徒の取組状況に応じた指導方法

⑵ 「義務教育段階での学習内容の確実な定着を図るための研究事業（平成25・26年度）」における研究

「キャリアアップ」を継続実施し、「平成23・24年度高等学校教育課程等編成研究事業」における課題解決を図り、授業の一層の充実を図ることを目的とした。

３　実施日程及び内容

平成 25 年度

25 年４月　教員対象のガイダンス、教材プリントの形式変更、基礎学力定着度検査

７月　１学期の振り返り、研修会（特別支援教育の視点に立った「キャリアアップ」の進め方）

９月　学校教育課高校教育室指導主事訪問

12 月　２学期の振り返り

26 年１月　公開授業

２月　１年間の反省、基礎学力定着度検査の再実施（４月と同じ内容）及び分析

３月　検証及びまとめ

平成 26 年度

26 年４月　義務教育段階の教科書を用いた学習内容の再確認、基礎学力定着度検査

６月　第１回公開授業

７月　１学期の振り返り

８月～１月　プリント内容の見直しと作成

10 月　高校教育課指導主事訪問

12 月　２学期の振り返り

27 年２月　第2回公開授業、１年間の反省、基礎学力定着度検査の再実施（4月と同じ内容）及び分析

３月　検証及びまとめ

４　実施上留意した事項

・新任教員に対する「キャリアアップ」の趣旨の徹底

・「キャリアアップ」の趣旨等について、生徒及び保護者への説明と地元中学校への周知

・平成 24 年度までの研究における課題を改善した授業の実施

・教材の再検討及び作成

５　研究の成果

⑴　課題の解決

ア　内容及び量に妥当性のある教材プリントの作成

・１枚のプリントの問題量を減らし、同程度の難易度のプリントを複数枚作成する。

・解答欄を大きくしたり、罫線を引いたりするなどの形式の変更を行う。

・他教科の教員にも問題内容のチェックを依頼する。

・より適切な内容となるよう問題を改訂する。

イ　定着が十分な生徒と不十分な生徒に対する指導方法

・定着が十分な生徒に対して、より発展的なプリント（高校段階も含む。）を用意する。

・定着が不十分な生徒に対しては外国語、数学、国語の教員が巡回して個別指導を実施する。

ウ　必履修科目における、「キャリアアップ」との関連性を考えた指導方法

・国語、数学、外国語の必履修科目の授業担当者が定期的に生徒個々のファイルをチェックして、どの程度まで理解が進んでいるのかを確認し、それを踏まえて必履修科目の授業を実施する。

エ　生徒の取組状況に応じた指導方法

・毎時間及び学期末に授業を振り返って自己評価用紙に記入し、生徒自身が取組状況を確認する。

・気になる生徒について担当者間で情報を共有し、取組が不十分な生徒には個別指導を実施する。

(2) 本研究における成果

ア　生徒の意識と学力の向上

・「キャリアアップ」が役に立っていると考えている生徒は80%を超えている。

・年度当初と年度末に実施した基礎学力定着度検査を比較すると、国語で90%、数学で70%、英語で90%の生徒の点数が上昇した。

・辞書を自ら引くなど、主体的な学習ができるようになった。

・理解の進んでいる生徒が、進んでいない生徒を教える学び合いができた。

イ　必履修科目との関係

・必履修科目と「キャリアアップ」の間での十分な連携ができるようになった。

ウ　他校への普及

・県内の数校において本校作成の基礎学力定着度検査を活用するなど、普及が図られている。

エ　中学生の意識向上

・「キャリアアップ」の趣旨が地元中学生に浸透し、本校への志願理由の一つになっている。

オ　プリント内容の再検討

・義務教育段階の教科書を読み直して学習内容を把握し、プリント内容を再検討した。

・全てのプリント内容を見直し、再作成した。

6　実施上の課題及び解決策等

新たに次の課題が明らかになったので、来年度以降も解決策を研究していく。

・より適切な評価方法の確立

・増加しつつある個別指導が必要な生徒に対する指導方法

・基礎学力定着度検査の点数が年度末に上昇しなかった生徒に対する指導方法

7　考察

生徒の多くは「キャリアアップ」を通して、学習に対する意欲や楽しさが向上してきている。本研究により、学力の三要素のうち、基礎的・基本的な知識・技能及び主体的な学習に取り組む態度を育成することができた。思考力・判断力・表現力については、他の授業と連携しながら育成方法を検討していきたい。

分からなかったことが分かるようになるのは、生徒にとって大きな喜びである。成功体験や他人から認められた経験が少ない生徒において、この喜びはキャリア形成を促し、人間的な成長にもつながっている。

市販の教材を用いることは教員の教材作成の負担を軽減するが、自校で教材を作成することにより、生徒の実態に則した教材を作成することが可能となった。全教員が共通認識のもとで取り組むことにより生徒の基礎学力の向上や学校全体が落ち着くなど、十分な成果をあげることができた。

公開授業には高等学校だけでなく特別支援学校や中学校からの参観者も多く、関心の高さがうかがえるとともに、本研究の成果を広く発信することができた。

本年度で指定研究が終了するが、研究のねらいは達成することができた。今後、本年度明らかになった新たな課題を解決し、より充実した「キャリアアップ」によって義務教育段階の学習内容の確実な定着を図り、生徒の学力向上と進路実現を目指す。